

令和6年度 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部では、幾春別川総合開発事業及び雨竜川ダム再生事業について事業費・工程監理の一層の充実を図るため、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について学識経験者等のご意見を頂く場として、「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

➤ 開催日時 令和6年8月7日（水）10：00～12：00

➤ 開催場所 札幌開発建設部 4階1号会議室

➤ 議題

(1) 幾春別川総合開発事業について

(2) 雨竜川ダム再生事業について



「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿

◎委員長（敬称略、五十音順）

名前	役職等
石井 吉春 いしい よしはる	北海道大学公共政策大学院 客員教授
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院 工学院院长
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学 名誉教授
矢部 浩規 やべ ひろき	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長

※石井委員は当日の委員会には欠席されました

(1) 幾春別川総合開発事業 議事の概要

○事業の概要

- ・実施箇所：北海道三笠市
- ・事業期間：昭和 60 年度～令和 12 年度
- ・総事業費：1,667 億円

○事業状況

- ・総事業費約 1,667 億円の内、令和 6 年度予算は約 57 億円、令和 7 年以降の事業費は約 311 億円であり、第 4 回計画変更後にコスト増減がありました。これまでの増減を合算すると約 27 億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっている。
- ・引き続き、今後の物価上昇等に留意し、総事業費および全体工程の監理に努める。

○主な意見

- ・物価増について、現状をどのように考えているのか。
→労務費の増や資材費の増について、それぞれのコスト増がダム事業にどのように影響しているのかを分析しているところ。
- ・新桂沢ダムの実際の試験湛水期間が計画と比較して短くなっているのであれば、事業費縮減の対象とならないか。
→試験湛水は、計画よりも早く終了しているが、数日間であり、試験湛水に要した費用の縮減額は軽微なものと考えている。
- ・工事は今後も続くが、クマタカの抱卵・育雛について今後、調査は実施するのか。
→調査は、毎年実施しており、工事への影響について確認し、適切に対応していく。
- ・三笠ぼんべつダムの基礎掘削の遅れについて、岩の掘削費用の増は発生したのか。
→左岸頂部の小さい掘削面積箇所での岩掘削による作業の遅れだったことから、岩の掘削量が増えたことによる事業費の増額は軽微なものと考えている。
- ・新桂沢ダムの試験湛水では、ダム本体に関して、試験湛水時の監視項目で最も重要である全漏水量も比較的少なく、地すべり対策箇所を含む貯水池周辺の安全性、放流施設の機能についても確認されている。
- ・貯水池上流部の付替林道の変状に関しては、変状原因を明確にしたうえで、対策工を実施すること。
- ・物価上昇は、事業のコスト監理とは別の要因と認識している。引き続き、事業費への影響を把握することは必要であるが、発注者として適正な価格で工事を発注し、事業の進捗に努めていただきたい。
- ・ECI 方式の契約について、過去のダム事業での実績を教えてください。
→ダム本体工事では、三笠ぼんべつダムで初めて採用したものであり、施工の内容について提案をいただき、契約したものの。
- ・三笠ぼんべつダムに関しては、基礎掘削の遅れに伴い、ダム本体の施工工程が、技術提案の打設能力増強などで、三笠ぼんべつダム全体工程、事業費に対しどのような影響を及ぼすのか検証・評価する必要がある。

○まとめ

- ・物価上昇への適切な対応、クマタカ等の環境調査等を引き続き実施いただき、工程・事業費のマネジメントを実施していただきたい。
- ・物価上昇は、事業のコスト監理とは別の要因と認識している。引き続き、事業費への影響を把握することは必要であるが、発注者として適正な価格で工事を発注し、事業の進捗に努めていただきたい。
- ・付替林道の変状については、原因の把握、対策工の検討を実施するとともに、事業費への影響を確認し、委員会で報告いただきたい。
- ・三笠ぼんべつダムは、基礎掘削、本体打設と進捗するにあたり、基礎掘削の遅れの影響、技術提案の効果について、工程・事業費を精査していただきたい。
- ・コスト縮減については、調査中のものも含めて、約 27 億円とのこと。今後もコスト縮減等の事業監理に努めていただきたい。

(2) 雨竜川ダム再生事業 議事の概要

○事業の概要

- ・実施箇所：北海道幌加内町
- ・事業期間：平成 30 年度～令和 15 年度
- ・総事業費：約 449 億円

○事業状況

- ・総事業費 約 449 億円のうち、令和 6 年度予算は約 44 億円、令和 7 年度以降の事業費は 285 億円となっている。
- ・令和 6 年度については堤体工事着手に向け、工事用道路工事および基盤整備工事に着手する。

○主な意見

- ・雨竜第 2 ダムの嵩上げ^{かさあ}について、ダム堤体を維持するために下流側へコンクリートを厚くする認識で良いか。また古いコンクリートと新しいコンクリートを接合する方法を教えてもらいたい。
→新桂沢ダムと同様に堤体下流側のコンクリートを厚くするが、堤体の安定性を確保するために、下流面の勾配を変えた結果、当初予定よりもコンクリートがさらに厚くなったものである。また古いコンクリート面との接合方法について、新コンクリートの表面は冬期に温度応力によるひび割れが発生しやすいことから、コンクリートの表面を暖めるなどしてひび割れを防ぐ工夫が必要と考えている。
- ・80 年以上経つコンクリートと密着させる技術は前例があるか。
→80 年以上経つコンクリートと密着させるダム工事はおそらく初めて。
新桂沢ダムの同様に古いコンクリートの表面を削りざらざらにした上に、新しいコンクリートを打設することで密着させることを考えている。
- ・嵩上しない雨竜第 1 ダムについて、完成から 80 年以上たっているが、ダム本体の健全に対する調査はされるのか。
→今年度、総合点検の方針を検討中であり、来年度以降調査を実施していく予定である。

- ・ 今後、本体工事、関連工事が本格化していくことから、さらにコスト縮減を意識して取り組んでいただきたい。
- ・ 物価上昇は、事業のコスト監理とは別の要因と認識している。引き続き、事業費への影響を把握することは必要であるが、発注者として適正な価格で工事を発注し、事業の進捗に努めていただきたい。
- ・ 雨竜第1ダムの地すべり精査について説明があったが、第2ダムの地すべりの状況についてはどのような状況か確認したい。
→ 雨竜第2ダムについては、概査及び精査が完了しており、対策工を必要とする箇所があることから、今後は対策工を行っていく。
- ・ 将来は、洪水調節を行うことにより貯水運用水位の影響があることから、適切な調査を行っていただきたい。
→ 雨竜第1ダムについては、引き続き必要な調査を進めていく。

○まとめ

- ・ 物価上昇は、事業のコスト監理とは別の要因と認識している。引き続き、事業費への影響を把握することは必要であるが、発注者として適正な価格で工事を発注し、事業の進捗に努めていただきたい。
- ・ 雨竜川ダムの再開発に伴い貯水位運用がこれまでと変わることから、地すべり調査など適切な調査を行うとともに事業費への影響を確認してもらいたい。
- ・ 今後、本体工事、関連工事が本格化していくことから、さらにコスト縮減を意識して取り組んでいただきたい。

(以上)